

全柔連だより

題字/嘉納行光

●発行人/上村春樹 ●編集/広報委員会 ●発行/財団法人全日本柔道連盟 (<http://www.judo.or.jp/>)

みんなの心をひとつに!

去る3月11日に発生した東日本大震災から、4ヶ月が過ぎた今もなお多くの被災者が厳しい生活を強いられています。被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

震災直後、日本全体は沈鬱、自粛のムードがあり、柔道界も2つの全国大会を中止しました。競技団体として我々ができることは何かということを考え、4月に入り、被災地の柔道関係者への励みや、今後の地域活性化につながればと、防災・安全面への配慮に努めながら、予定していた全国大会を再開しました。今後は、世界選手権大会やオリンピックなど国際舞台での日本代表選手の活躍などが、被災地の皆様への大きな励みになると思っています。

東北3県を中心に多くの柔道関係者が被災されており、当連盟としても、皆様からの支援に先立ち、講道館と共同して日本赤十字社に義援金を委託しました。まず、震災後ただちに、日本代表選手などが中心となって大会会場で義援金募集を始めるとともに、合宿等でお世話になった被災地などにお米やカップラーメンなどを送りました。引き続きホームページなどでも柔道関係者に対する義援金の募集を行い、各都道府県の連盟・協会にもご協力をいただき、多くの方々から沢山の義援金が寄せられています。

また、震災にめげず柔道修行を続けていただきたいとの気持ちを込めて、特に被害の大きかった東北3県に対しては、全柔連登録費と保険料の納入を免除するなどの特例措置も講じさせていただきました。

今年は、嘉納治五郎師範が創設し、初代会長を務められた日本体育協会・日本オリンピック委員会が創立100周年を迎えます。嘉納師範は講道館柔道の精神である「精力善用・自他共栄」の原理に基づき「社会への貢献が柔道修行の究極の目的である」と述べていますが、日本の多くの競技団体やスポーツ選手が率先して被災地への支援活動に参加している姿を見ると、何か柔道という枠を超えて、嘉納師範の精神が100年の歳月を経て生き生きと蘇ってきているように感じています。

被害は甚大であり、復興にもなお相当の時間がかかると思います。これからの支援活動は、真に被災地の皆さんが求めているものを見極めた上で、長期的、持続的に進めていく必要があると考えています。引き続き、柔道関係者の皆様のご支援・ご協力をよろしく願いたします。

財団法人全日本柔道連盟 会長
上村 春樹

